

2年	生活科	「まちが大すきたんけんたい」	15時間
単元の目標	地域と関わる活動や、公共施設などを利用する活動を通して、地域やそこで働いている人々、公共施設などのよさや働きを捉えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていること、身の回りにはみんなでするものがあること、それを支えている人々がいることに気づき、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり、利用したりできるようにする。		【方向目標】 学習過程や指導の方向性。質的な評価、自己評価。
単元末における具体的な児童の姿	A 公共施設の適切な利用の仕方を理解し、身の回りの生活と結びつけて、親しみや愛情をもち、自分なりの考えをもって表現したり、他の考えを受け入れたりしている。 B 公共施設の適切な利用の仕方を理解し、身の回りの生活と結びつけて、親しみや愛情をもち、学んだことを自分なりに表現している。 C 公共施設の適切な利用の仕方を理解している。	実際	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現したり、他の意見を聞いて受け入れたりする様子が8割の児童に見られた。更に、自分の学年だけでなく他学年へ伝えたいという意欲をもち、学習発表会で伝えることができた。 自分の考えをもって写真を選び、スライドを用いて表現している様子が見られた。 公園のきまりや役割について理解し、自身の興味関心に応じて写真を選んだ。
個人間差異	手だて		効果
① 興味関心の違い	①・きまりが分かる看板や遊具など公共施設（公園）の写真を撮り、視覚的に分かりやすい資料を用意して使えるようにする。 ・町探検に行き、実際に公共施設（公園）を見ることで体感させる。 ・まとめた内容を他学年に発表するという目的をもたせることで学習意欲を維持させる。 ・ICTを活用する。タブレットでGoogle mapを使い、学校や自分の家の近くにある公共施設（公園）を探す。		○ ◎ ◎ ○
② 生活経験の違い	②・町探検に行き、実際に公共施設（公園）を見ることで体感させる。 ・ICTを活用する。タブレットでGoogle mapを使い、学校や自分の家の近くにある公共施設（公園）を探す。 ・ストリートビュー機能を使用し、実際に歩いて公共施設（公園）に行くような疑似体験をする。		◎ ○ ○
③ 行動速度の違い	③・同じペースでできる子とグループを組んだり、個人で活動したりするなどの学習形態を自分で選べるようにする。 ・書くことが苦手な児童の支援策としてタブレットを活用する。		△ ◎

④ 言語力の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを項目別にして視点をもたせ、書ける児童はたくさん書けるようにする。 ・「チェックリスト」を作成し、やることを明確化する。どう進めるかを記載し、見通しをもたせる。 <p>④・表現方法をスライドにし、発表原稿を別に作成する。タブレットの操作よりも書く方が良い児童には紙芝居形式で作成するなど柔軟に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォームを使用して振り返り活動を行う。 ・ワークシートを項目別にして視点をもたせ、書ける児童はたくさん書けるようにする。 	○ ○ ◎ ◎ ○
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学区の拡大地図を使ったことで、どこに探検に行ったのか空間認識ができた。 ・今回は公園の「よさ」や「秘密」について深めた授業で、同じ体験をしていることで全体での共有ができ、共感することができた。 ・何のために公園に行くのか、目的や視点をもって探検に行くことが大切であると理解できた。 	課題 <ul style="list-style-type: none"> ・町探検で見つけたものを、タブレットで子供たちが写真を撮れると、以降の学習に生かしてよい。 ・どこの公園の何かということが分かるような写真を準備しておくといよい。 ・目的が曖昧だったため、1年生に公園の「よさ・秘密」を伝えるために見付けに行くことを目的とすると良かった。 ・振り返りの内容は、教師が公園のよさや秘密をどの程度捉えさせたいのか、何を気付かせたいのかを明確にもった上で作成し、今後の学習に生かすべきである。

